

親密化過程における話題選択の変化

—日本人女子学生による縦断的会話をもとに—

方敏（筑波大学大学院）

1. はじめに

留学生と日本人学生の関係構築について円滑に進んでいない現状を踏まえ、関係構築阻害要因に関する研究が多くなされてきた。特に初対面場面の間関係構築について、大きな関心が寄せられており、一定の成果をもたらされている。しかし初対面だけでなく、会話参加者同士が親しくなる過程でのコミュニケーションの変化も、日本語教育にとって必要になっている(中山, 1995)。したがって、留学生と日本人学生のダイナミックな関係構築のプロセスを解明する必要がある。そのために、まず日本語母語話者同士の対人関係の構築・更新に伴うコミュニケーションの変化を明らかにする。ここでは、対人関係構築・更新が話題選択に反映されやすく、初対面相手と知り合い、友人に対する話題が異なるはずである。本稿では、話題選択に着目し、日本語母語話者同士が親しくなるプロセスにおいて、話題選択がどのように変わるのかを解明することを目的にする。

2. 先行研究及び問題点

日本語母語話者の初対面会話における話題選択に関する研究は多くなされており、その代表的なものとして三牧(1999)が挙げられる。三牧(1999)は38組の日本語母語話者大学生の初対面会話を踏まえ、話題選択スキーマの存在を明らかにした。話題選択スキーマとして、共通性が高い23の話題項目、8の話題カテゴリーを挙げている。

一方、話題選択を縦断的に分析した先行研究は数少なく、管見の限り、初対面から友人関係になった参加者の話題を分析したのは谷(2011)しかない。しかし、谷(2011)では会話参加者が会話実験収録の間共通の友人を交えて何回も遊びに行っている。よって、話題選択が会話実験以外での接点に影響されており、会話実験の回数の増加に伴う話題選択の変化についてはまだ未解明だと言える。

3. 研究方法

3.1 会話資料

本研究では、会話の回数を重ねるに伴い、話題選択の変化を明らかにするために、日本語母語話者17名を2人ずつに10ペアに分けて、基本的に1週間に1回の頻度で、初対面から4回目までの話題を設定しない自由会話を録画・録音した。話題選択への影響を最小限するために、研究目的については詳しく説明しなかった。毎回の収録後、会話の自然さや相手との関係などについて、アンケート調査とフォローアップ・インタビューを行った。本稿では、親しくなる過程における話題選択の変化を解明するために、事後調査の結果により、初対面から友人関係に発展した同学年同士の1ペアの会話データを分析対象とした。当該ペアは会話実験収録の間、接点を持っていなかったが、4回の会話実験収録後、友人としての付き合

いが始まった。

3.2 話題と話題区分

まず、話題の定義について、三牧(1999)を参考にしつつ、「会話参加者の相互行為により会話の中で導入、展開された内容的に結束性を有する最も大きな情報のまとまり」とする。そして、話題認定するにあたり、話題の内容だけでなく、話題転換部で示した構造的な特徴も手がかりにし、話題区分を行った。

3.3 分析方法

分析の観点について、以下の2つの面から話題選択を検討する。まず、初対面から4回目までの会話で取り上げられた話題を時系列に示し、回数の増加に伴う話題選択の様相を調べる。話題を名付ける際に、三牧(1999)による話題選択スキーマを参考にした。三牧(1999)で言及されていない話題について、本稿では独自で名付けた。次に、プライバシーに関わる「恋愛」の話題を質的に分析し、回ごとの同一話題の踏み込み方の変化を分析する。

4. 分析と考察

4.1 回ごとの話題選択

本節では当該ペアの初対面から4回目までの会話の回ごとの話題選択を以下の表1にまとめる。三牧(1999)の話題スキーマに属する話題は太字で示し、プライバシーにかかわる話題は網掛けで示す。プライバシーに関わる話題の認定は全(2009)を参考にした。

表1 回ごとの話題選択

回数	個数	話題項目
初対面	8	共通体験 , 研究テーマ/修論 , 留学, お菓子, 日常生活, 進学 , 就職 , 授業
2回目	8	お菓子, 生理 , 忘れること, 飲食禁止, 家族 , 受験・塾 , 部活動, 中学校・高校
3回目	14	研究テーマ/修論 , 修了, 研究テーマ/修論 , 飲み物, 研究テーマ/修論 , 家族 癒しとなる動物, 家族 , 現実逃避, 就職 , 研究テーマ/修論 4 , 恋愛 , 共通体験 , 遊び
4回目	12	髪型 , 研究テーマ/修論 , 共通体験 , バイト , 虫, 肌 , 日常生活, 恋愛 , 共通体験 , 恋愛 , 遊び , 恋愛

表1に示したように、初対面会話において選択された8個の話題には、「共通体験」(本会話実験を指す)、「研究テーマ・修論」「進学」「就職」など5個は三牧(1999)の話題選択スキーマに当てはまる。「お菓子」の話題が取り上げられたのは、筆者が会話参加者の緊張感を和らげるために、会話実験をする際に軽食と飲料を用意しておいたためだと考えられる。また、「留学」「日常生活」はいずれも大学生活に関わる話題である。

2回目の会話では、三牧(1999)の話題選択スキーマに該当する話題は「受験・塾」のみであり、話題選択の多様性が見られる。会話実験にかかわる「お菓子」「飲食禁止」以外に、プライバシーに関わる話題も取り上げられている。例えば「生理」「家族」である。また、過去に遡った中学校・高校生活に関連する話題も観察される。

3回目の会話では話題数が前の2回の会話を上回って、14個になる。三牧(1999)の話題選択スキーマに該当する話題と該当しない話題は半分ずつ占める。話題数が多くなったのは、同一話題が何回も取り上げられるためである。同一話題が繰り返されている一因は当該話題への関心度が高く、共感的に会話を進められるためである。会話参加者はいずれも修士2年で会話収録期間は修論執筆中である。そのため、「研

究テーマ/修論」の話題に関心を持っており、修論進捗状況を互いに報告し、執筆の大変さを語り合うことで参加者の間に共感が生まれる。プライバシーにかかわる話題も2回目では観察される。特に注目に値するのは「恋愛」の話題が取り上げられることである。「恋愛」の話題は自己に関する情報の中で最もプライベートなもの（三牧，2016）のため、今回の会話実験に参加した10ペアのうち、このペアしか取り上げていない。

4回目の会話では抽出された12個の話題のうち、「研究テーマ・修論」「バイト」など5個は三牧(1999)の話題選択スキーマに該当する。2, 3回目の会話と同じく、プライバシーに関わる話題も取り上げられている。女性の友人同士の会話でよく話題にされる髪型などの外見の話題（熊谷・石井，2005）が観察された。また、3回目で選択された「恋愛」の話題も何回も持ち出されている。

4.2 「恋人」話題について

本節では「恋愛」の話題を取り上げ、会話例を踏まえ、同一話題の踏み込み方の相違を具体的に分析していく。3回目会話では「恋愛」の話題が初めて疑問文の形でKIにより導入される（1行目）。疑問文による話題導入は相手に興味を示す一方で、回答を強いる行為であるため、相手に対する配慮が必要される。よって、1行目の「恋-恋人」の言い直し、「とか」「たり」、3行目と5行目の「いや」「突然」の言葉遣いによりOAに配慮をしている。1行目のKIの情報要求に応じて、10行目と13行目でOAが笑いながら「い(h)ま hhhhhh す」と返答している。OAが最小限の開示をしているが、笑いを伴うことからみれば、当該話題の提出により、OAのプライバシーを侵害しないことが分かる。よって14行目でKIは「飲みに行きたくらいだけ=」（14行目）と話している。

会話例1：3回目会話における「恋愛」の話題の断片—恋人有無

- 1 KI: あ恋-恋人とかっていたり[す(h)る(h)ん(h)で(h)す(h)か hhhhh
- 2 OA: [hhhhhhhhh
- 3 KI: い(h)や(h)あ(h)の hhhh
- 4 OA: すごい
- 5 KI: いや[hhhh 突(h)然 hhhhh 今の
- 6 OA: [私も知(h)り(h)た(h)い(h)の hhhh
- 7 OA: 彼氏とかじゃなくて、恋人[ってこと久(h)し(h)ぶ(h)りだ(h)に聞(h)い(h)た(h)な(h)と(h)思(h)っ(h)
- 8 て(h)
- 9 KI: [い h や hhhhhh
- 10 OA: [い(h)ま hhhhhh
- 11 KI: [あの hhh 関係
- 12 (.)
- 13 OA: す
(略)
- 14 KI: 分かる、[あのちょっとなんだよ、今飲み、飲みに行きたくらいだけ=

次の会話例2は、4回目の会話で取り上げられた「恋愛」の断片である。1行目でKIは「なんか好きになると、絶対この人好きだわってなって」と自ら恋愛のタイプに関することを開示し、3回目の「恋人有無」

より一層踏み込んでいく傾向がある。

会話例2：4回目会話における「恋愛」の話題の断片—恋愛のタイプ

- 1 KI: そう, 私も [傾向としてある, なんか好きになると, 絶対この人好きだわってなって
2 OA: [その気持ち
3 OA: え:
4 KI: 多分いのしし年だから
5 OA: [うんうんうん hhhhhhh
6 KI: [(私も)行くんだね hhhhhhh
7 OA: 抑えられないみたいな hhhhh
8 KI: そう, 私常套手段は
9 OA: え:[:::
10 KI: [筑波山にの-の-筑波山に誘うだから
(略)

5. まとめ

本研究では日本人女子学生による初対面から4回目までの会話を踏まえ、親しくなるプロセスでの話題選択を考察した。まず、初対面会話では、三牧(1999)の話題選択スキーマに該当する話題が多いため、話題選択には高い共通性を示した。2回目以降では、三牧の話題選択スキーマに該当しない話題が半分程度を占めた。特に、先行研究で指摘されるプライベートな話題がよく取り上げられた。次に、「恋愛」話題の分析により同一話題の踏み込み方について説明した。当該話題は3回目の会話で、初めて質問による導入されてから「恋人の有無」のみに言及して、詳しく話されず、会話実験の話題に移った。4回目の会話では、「恋愛」話題は再び取り上げられて、恋愛のタイプに関することも自ら開示し、さらに踏み込んでいった傾向が観察された。

参考文献

- 熊谷智子・石井恵理子 (2005). 会話における話題の選択—若年層を中心とする日本人と韓国人への調査から— 社会言語科学, 8(1), 93-105.
- 全鍾美 (2009). 初対面場面における話題回避に関する質問紙調査 言葉と文化, 10, 95-111.
- 谷智子 (2011). 初対面からの継続的対面データにみる話題のデフォルト化—ディスコースレベルのポライトネスの観点から— 大阪大学言語文化学, 20, 75-88.
- 中山晶子 (1995). 親しさと冗談・からかいの表現 坂田雪子先生古稀記念論文集刊行委員会 (編) 日本語と日本語教育: 坂田雪子先生古稀記念論文集 三省堂 pp.163-187.
- 三牧陽子 (1999). 初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー—大学生会話の分析— 日本語教育, 103, 49-58.
- 三牧陽子 (2016). 初対面接触場面における話題管理—接触経験豊富な社会人データをもとに— 三牧陽子・村岡貴子・義永美央子・西口光一・大谷晋也(編) インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践 くろしお出版 pp.148-168.